

alic

エーリック

2021

8

月号

第56号

- 業務関連情報
- 02 乳製品輸入・売渡業務のご紹介
- 寄稿
- 04 令和2年度 食料・農業・農村白書
～特集「新型コロナウイルス感染症による影響と対応」～
農林水産省大臣官房広報評価課情報分析室
- REPORT
- 06 世界最大の鶏肉輸出国 ブラジルの鶏肉事情
- alic セミナー
- 09 中国の飼料をめぐる情勢
- alic から
- 11 台湾・中央畜産会との定期情報交換会議の開催について



乳製品輸入・売渡業務の ご紹介

業務関連情報

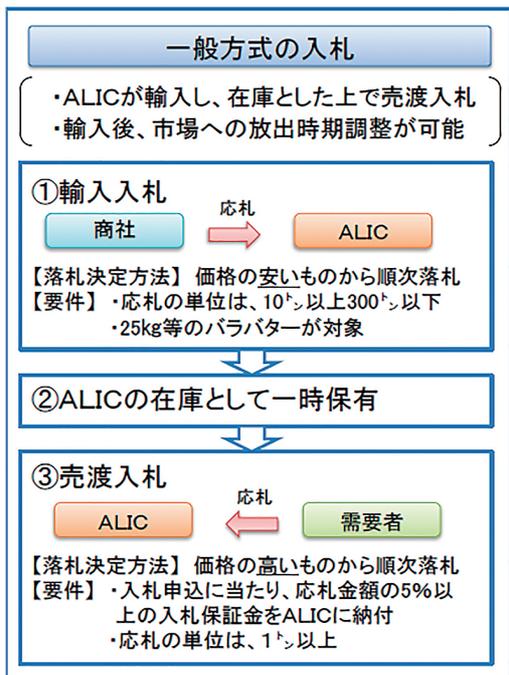
牛から搾ったままの乳を生乳といいますが、生乳を殺菌処理した牛乳は賞味期限が短い一方で、生乳を加工して作られるバターや脱脂粉乳は保存が利くため、日本国内では牛乳の消費が減るとこれらの乳製品の生産を増やすことにより、生乳の需給を調整しています。

日本の生乳生産量は、担い手の高齢化や後継者不足などを背景とした酪農家戸数の減少に伴い、減少傾向で推移していたため、バターや脱脂粉乳などに仕向けられる生乳（加工原料乳）も不足傾向にありました。しかし、2017年度以降は北海道を中心に生乳生産量が増加に転じ、2020年には新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、外食や菓子向けなど業務用乳製品に対する需要が大幅に減少したことから、現在はバターや脱脂粉乳の在庫量が増加しているところ です。

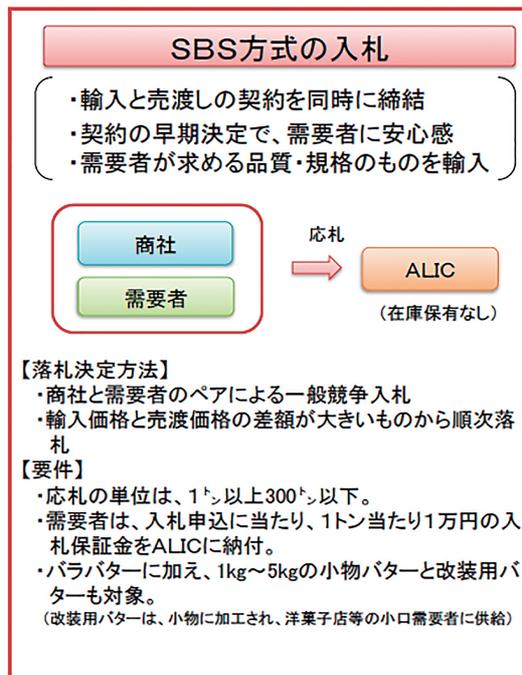
このように、生乳の需給は変動しやすく、また、冷夏や猛暑などの天候によっても左右されます。alicは、こうした需給の動向

に応じた乳製品の輸入・売渡業務を通じて、皆様の食生活を支える重要な品目であるバターや脱脂粉

乳などの需給の安定が図られるよう努めています。



資料：農林水産省



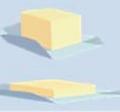
○乳製品の輸入・売渡業務とは？

alicは、安価な乳製品の無秩序な輸入によって国産乳製品の生産や需給に悪影響が及ばないよう、世界貿易機関（WTO）協定に定められたルールのもと、バターや脱脂粉乳などの乳製品の輸入および売渡しを行っています。その品目、数量や時期などについては、毎年1月に農林水産省が公表する年間の輸入枠数量に基づき、国内の需給動向などを注視しながら決定しています。

この場合の輸入者（乳製品取扱商社）と売渡先（乳業メーカーなどの需要者）は、入札によって決定されます。輸入方式には、「一般方式」と「SBS方式」の二つがあり、現在は、需要者が求める品質・規格のものを輸入できる「SBS方式」が主流となっています。

この輸入・売渡しの際に

バターの種類

用途	業務用		小売用
	工場向け (製菓、飲料等)	店舗向け (外食、製菓、製パン、ホテル等)	家庭向け (料理、パン、菓子等)
呼称	バラ (国産/輸入)	小物、シート (輸入)	カートン、カップ、 ポーション (主に国産)
形状	20~25kg/箱  (段ボール箱入り)	1~5kg/個 	カートン：150g~200g/個 カップ：100g/個 ポーション：8g×8個/箱 等 
保存	冷凍保存：2~3年	冷凍保存：2~3年	冷蔵保存：150~180日

※ このほか加塩の有無（無塩バター、加塩バター）、発酵の有無（無発酵バター、発酵バター）による種類分けがある。

資料：農林水産省

生じる売買差額（マークアップ）については、加工原料乳を生産する酪農家に生産者補給金として交付するなど、日本の酪農経営の支援に充てられています。

○輸入乳製品の安全性

輸入したバターや脱脂粉乳などは業務用が中心であり、乳業メーカーなどに売り渡した後は、パン、ケーキ、アイスクリームおよびヨーグルトなどの原料として使用されています。

alicは、輸入時に、食品衛生法に基づく検査だけでなく、独自の基準による検査も行っており、その検査項目は残留農薬、細菌数、乳脂肪分、水分量など多岐にわたります。

また、輸入後売り渡すまでの保管についても、独自の基準を設定しており、これらの安全基準を満たした乳製品が国内に流通されるようにしています。

○令和3年度の輸入数量

alicは、国際約束（カレント・アクセス）に基づき、毎年度、生乳換算で約13万7千トンに相当する乳製品を輸入しています。また、国内でバターや脱脂粉乳の供給が不足すると見込まれる場合に



は、カレント・アクセスに加えて追加輸入を行い、乳製品の安定供給の確保に努めています。令和3年度は、バター・脱脂粉乳ともに国内の在庫が十分にあるため、カレント・アクセス相当量のみを輸入する予定です。

(酪農乳業部乳製品課)

こちらをご覧ください！

「alicの業務はすべての人のために」

乳製品の輸入・売渡し―農畜産業振興機構

●はじめに

新型コロナウイルス感染症は、令和2年に世界的な大流行に発展し、農林水産業・食品産業を含む我が国の経済・社会に大きな影響を及ぼしています。このため、「令和2年度 食料・農業・農村白書」（令和3年5月25日公表）では、「新型コロナウイルス感染症による影響と対応」を特集として取り上げ、新型コロナウイルス感染症の拡大による食料消費面や農業生産・販売面での影響と新たな動き、地方への関心や働き方、交流に関する新たな動きなどについて記述しています。本寄稿では、白書の特集のエッセンスについて紹介します。

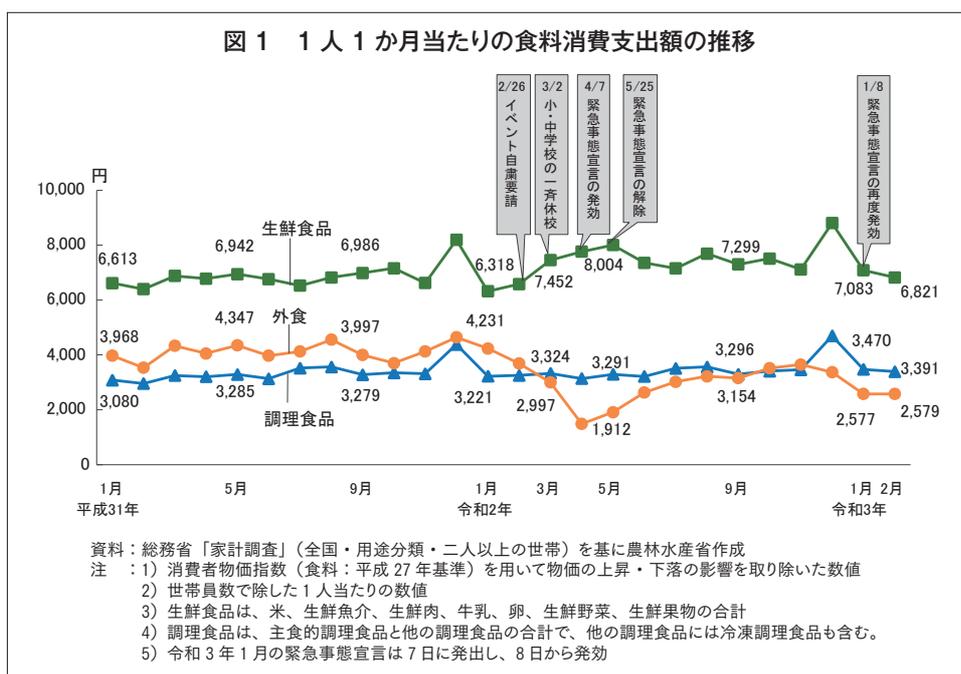
●食料消費面での影響と新たな動き

令和2年2月以降、学校の休校や外出自粛、インバウンド需要の減少等により、外食事業者を始め、

関連産業に大きな影響が発生しています。感染症が拡大するにつれ、

外出自粛に伴う家庭内消費が増加し、令和2年3月以降、外食への支出額が大きく減少する一方、生鮮食品への支出額が増加しました（図1）。

図1 1人1か月当たりの食料消費支出額の推移



このような中、外食事業者の中には、テイクアウトや、フードデリバリーへの取り組みを拡大する動きが見られます。また、消費者において、新型コロナウイルス感染症の拡大により販路を失った国内生産者から農水産物を購入する「応援消費」の動きが見られました。このほか、

外食用に販売予定であった未利用食品を、フードバンクを通じて「子ども食堂」などに提供する動きも見られました。

●農業生産・販売面での影響と新たな動き

外食需要やインバウンド需要の減退により、和牛肉、わさび、マダイなどの卸売価格が低下するとともに、イベントや冠婚葬祭が中止されたことなどにより、切り花の卸売価格が低下しました。令和2年7月に株式会社日本政策金融公庫が実施した調査では、農業者の半数が売上高にマイナスの影響があると回答し、令和3年1月の同様の調査では、その割合は6割強に上昇しました。

このような中、生産者や観光農園がオンラインを活用した消費者への直接販売や、外食用から小売や加工用へ販路を変更する動きが

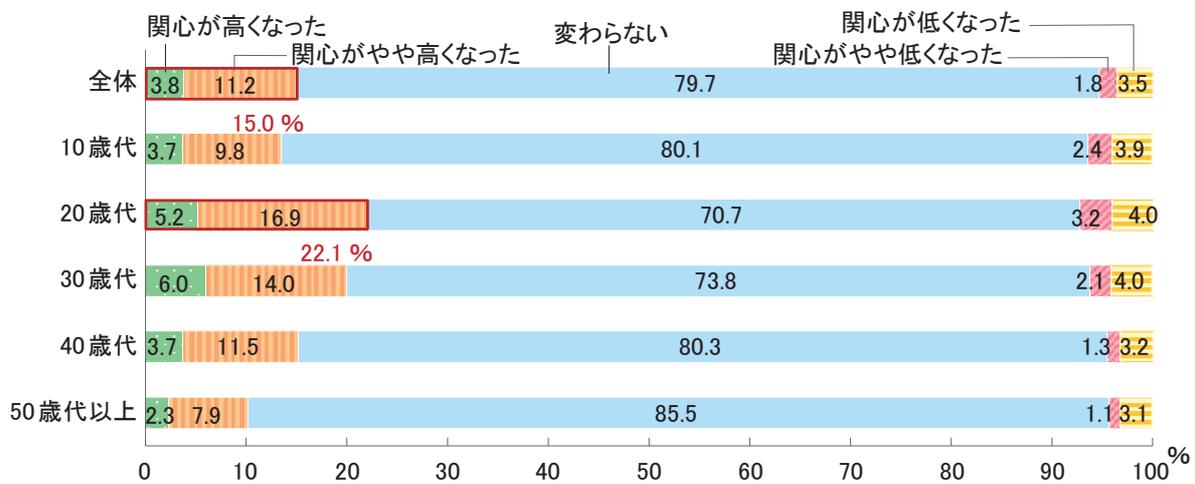
見られました。また、外国人の入国制限措置により、令和2年4月から来日を予定していた外国人材の入国が困難になりましたが、宿泊業・飲食業などの他産業から農業経営体が労働者を雇用する動きが見られたほか、農福連携やスマート農業機械の導入による労働力不足への対応などの取り組みが展開されました。

●地方への関心や働き方、交流に関する新たな動き

新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、テレワークなど場所を問わない働き方が進行するにつれ、地方への関心が高まっています。令和2年5～6月に内閣府が行った調査によると、新型コロナウイルス感染症の影響により、都市住民の15.0%が地方への移住への「関心が高くなった」などと回答しています(図2)。

また、令和2年度就農希望者向け相談会への来場者数は9月以降増加しており、農業への関心が高まっていることがうかがえます。

図2 新型コロナウイルス感染症の影響下における地方移住への関心の変化



資料：内閣府「新型コロナウイルス感染症の影響下における生活意識・行動の変化に関する調査」(令和2年6月公表)
 注：1) 令和2年5～6月に、三大都市圏の住民を対象として実施したインターネットによるアンケート調査(有効回答数は1万128人)
 2) 新型コロナウイルス感染症の流行による地方移住への関心の変化についての質問への回答結果
 3) 三大都市圏は東京圏(埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県)、名古屋圏(岐阜県、愛知県、三重県)、大阪圏(京都府、大阪府、兵庫県、奈良県)

す。生産現場では、農業と宿泊業や、農業と酒造りなど、農業を営みながら他の仕事にも携わる働き方である「半農半X」の拡大に向けた取り組みが一部自治体で行われています。

●農林水産業・食品産業関係における対応

農林水産省は、感染症の拡大の影響を受け、国民への食料の安定供給を確保する観点から、緊急経済対策などにおいて、農林漁業者などの経営継続支援などの措置を実施しました。

新型コロナウイルス感染症の拡大

により食料・農業・農村に影響が生じたことは、食料供給に影響を及ぼすリスクが多様化していることを示しています。食料の安定供給は、国の最も基本的な責務の一つであり、国内の農業生産の増大に向け、食料自給率の向上や食料安全保障の強化への期待はますます高まっています。このため、国は、今後も新型コロナウイルス感染症による影響の緩和に取り組むとともに、感染の発生状況などを注視し、必要な対応を行っていくこととしています。

●おわりに

令和2年度食料・農業・農村白書では新型コロナウイルス感染症による影響と対応のほか、令和2年度における特徴的な動きとして、農林水産物・食品の輸出の新たな戦略や、みどりの食料システム戦略、スマート農業実証プロジェクト、農業DX構想などを取り上げ、記述しています。

世界最大の鶏肉輸出国 ブラジルの鶏肉事情

調査情報部 国際調査グループ



ブラジルの農業というと伝統的な農産物としてコーヒーや砂糖が挙げられますが、近年では大豆やトウモロコシなどの穀物や牛肉、鶏肉などの食肉の生産が増え、多様な農業が展開されており、農業大国として世界の農畜産物需給に大きな影響を及ぼしています。このように農業の拡大、多様化が図られたのは、1970年代半ば以降、内陸中西部に広がる広大な熱帯サバンナ地帯（セラード）の開発が進み、農地として利用できる地域が拡大したためといわれています。

今回は、世界最大の輸出国となった鶏肉事情について、ご紹介いたします。

● 鶏肉産業の概要

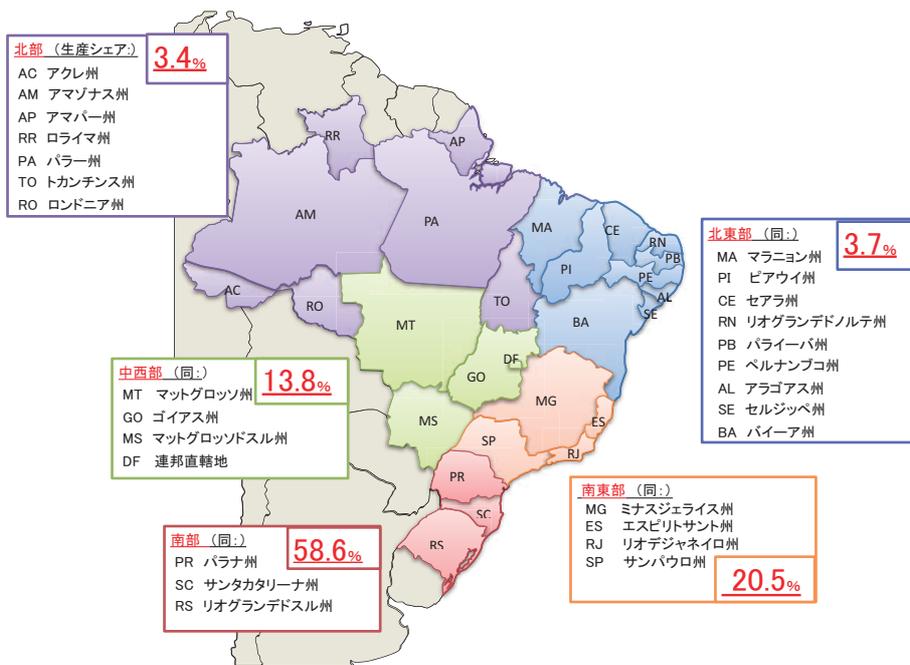
ブラジルの鶏肉産業は、トウモロコシや大豆かすといった豊富な飼料穀物を背景として、生産から加工、流通に至るまで垂直統合された生産体系を中心に成長してきました。2019年の鶏飼養羽数は14億7000万羽、鶏肉年間処

理羽数は58億500万羽、生産量は1351万7千トンと世界有数の規模を有しています。主要な生産地は伝統的に穀物生産が盛んな南部地域の3州でブラジル全体の6割近くの生産量を占めます(図)。

ブラジルには2億人を超える大

きな国内市場があり、生産された鶏肉の7割程度は国内消費され、残りの3割程度が輸出に仕向けられます。2019年の鶏肉輸出量は417万5千トン(製品重量ベース)と世界第1位で、主な輸出先は、近年増加している中国の

図 ブラジルの行政区分と地域別鶏肉 生産シェア (2019年)



資料：ブラジル地理統計院 (IBGE) のデータを基に機構成

ほかサウジアラビア、日本、アラブ首長国連邦などであり、約140カ国に及ぶ広範な地域に輸出されています。

日本向けは全体の10%程度を占め、同国にとって安定的な主要輸出入先と位置付けられています。一方、日本にとってブラジル産は、鶏肉輸入量（調製品を含まない）の7割強と圧倒的なシェアを占め、馴染みの深い輸入食品の一つとして、外食などの業務用や小売店での販売を通して日本の食卓に

普及しています。

● COVID-19の鶏肉生産・消費への影響

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）は、ブラジルの鶏肉産業にも大きな影響を及ぼしています。ブラジルでは、2020年2月に初めて感染が確認され、4月以降急速に感染が拡大しました。これまで何度かの波を繰り返して、約1800万人の感染者が確認されていますが、収束の兆しは

見えていません（2021年6月末現在）。

ブラジル農牧食糧供給省、経済省ならびに保健省は2020年6月19日、共同で食鳥処理場に対しCOVID-19の防止・管理・抑制対策のガイドラインを定めた省令を発令しました。このガイドラインでは、作業者間の距離の確保（1メートル以上）などの70項目が定められています（写真1）。

食鳥処理場にとってCOVID-19対策は施設整備などのコス

ト増を伴うものですが、感染が拡大する中、生活に必要な業務としてガイドラインに即した操業が継続されており、これまで大規模な操業停止による生産減といった事態には至っていません。

また、国内の消費動向をみると、都市封鎖の影響により大都市を中心に外食需要が落ち込む一方、家庭での消費が増加する傾向が見られます。さらに経済状況の悪化により安価なタンパク質として鶏肉や鶏卵などが選ばれており、これらの消費量が増加しています。

● 近年の鶏肉消費スタイル

ブラジルでは、かつてテーブルミートとして丸鶏グリラー（鶏の丸焼き）を買って一家で食べるといった習慣がありました。しかし、都市部を中心に核家族化が進み、丸鶏グリラーは家族全員が集う時のご馳走として食べられる程度となり、最近ではスーパーマーケットなどの食肉売り場でも、ほとんどがパーツ販売となっており、バックヤードで丸鶏をカットし、



根据工作区域的不同，使用如纺织口罩，



ABPA - ABPA - Protocolos de Segurança na Indústria de Alimentos

全面关注

对员工的保护和对食品卫生质量的保证是巴西农企的重中之重



ABPA - ABPA - Protocolos de Segurança na Indústria de Alimentos

餐厅所有区域进行不同断消毒，餐桌之间用围挡隔

写真1 食鳥処理場でのCOVID-19対策（ブラジル動物性タンパク質協会提供）



写真2 鶏肉販売コーナー

トレイパックをする店舗が多くなっています(写真2)。
 ブラジルには鶏肉料理がたくさんあります。サンパウロ州の北部にある内陸のミナスジェライス州では、オクラとともにトマトの味付けで煮込む料理や、鶏の血を混ぜて煮込む料理があります。リオデジャネイロでは、小ぶりの丸鶏を炭火で焼くガレット(Galeto)が有名で、塩だけの味付けのあっさりした料理です。(写真3)。また、全国のバール(居酒屋)では、唐揚げ(Frango Passarinho)がおつまみとして定着しています。どの肉片にも必ず骨が残るようにカットされ、ニンニクを利かせて

揚げたもので、日本の唐揚げのように衣は厚くありません(写真4)。心臓(ハツ)は、シユラスコを食べるときの前菜として人気があり、串に刺して味付けは塩だけで、炭火焼きで提供されます。パダリア(パン屋)の多くは週末、店頭で大型グリルを出して、鶏の丸焼き(Frango Assado)を提供しています。さらに牛肉の代わりに鶏ムネ肉を使ったチキンストロガノフ(Strigonoff de Frango)があり、子どもや女性に人気があります。また、加工品としては、安価なチキンソーセージ(写真5)がホットドッグや手ごろな家庭料理の食材として広く普及しており、薄切



写真4 唐揚げ



写真3 ガレット

りにしてトマトソースで煮込んだものは、ホテルの朝食の定番メニューとなっています。このほか最近では、ナゲットや鶏肉ハンバーグ(写真6)、味付け加工品などが増えてきています。



写真6 鶏肉ハンバーグ



写真5 チキンソーセージ

「中国の飼料をめぐる情勢」

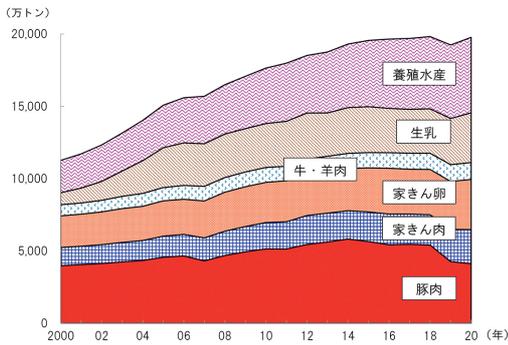
alicでは、業務を通じて得られた情報や、これらに関連する様々な情報を広く国民の方々に知っていただけるよう社会的発信の充実に取り組んでおり、その一環として「alicセミナー」を開催しています。

令和3年6月10日(木)に「中国の飼料をめぐる情勢」を調査情



収穫前のトウモロコシ (2019年9月吉林省で撮影)

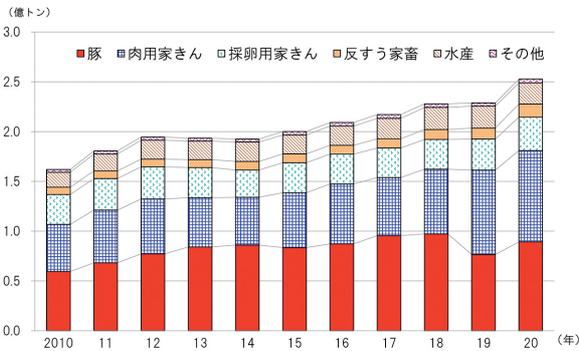
図1 主な動物性たんぱく源生産量の推移



資料：中国国家统计局

報部の寺西梨衣(当時)から報告しましたので、その概要を紹介いたします(オンライン開催)。
経済発展に伴う畜産物需要増で飼料生産も増加
 中国の畜産物や水産物の生産量は、経済発展に伴う需要の増加により、2000年から20年間で2

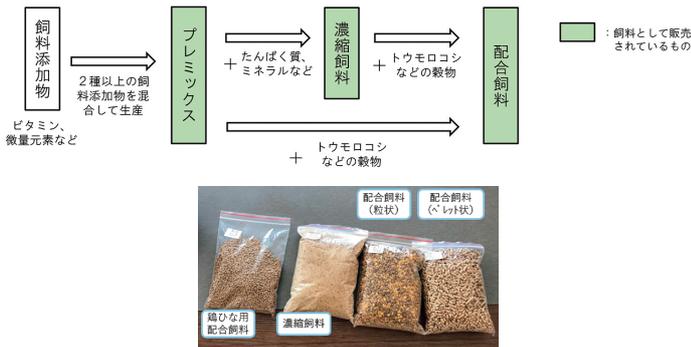
図2 畜種別飼料生産量の推移



資料：中国飼料工業協会、各種公表資料を基に機構作成

倍弱に増えていきます(図1)。これに伴い、家畜の飼養頭羽数が増加したこと、また、効率よく増産するために栄養価が高い飼料が求められたことから、飼料の需要も増加しています。2020年の飼料生産量は、5か年計画(十三五 発展計画)で定められた

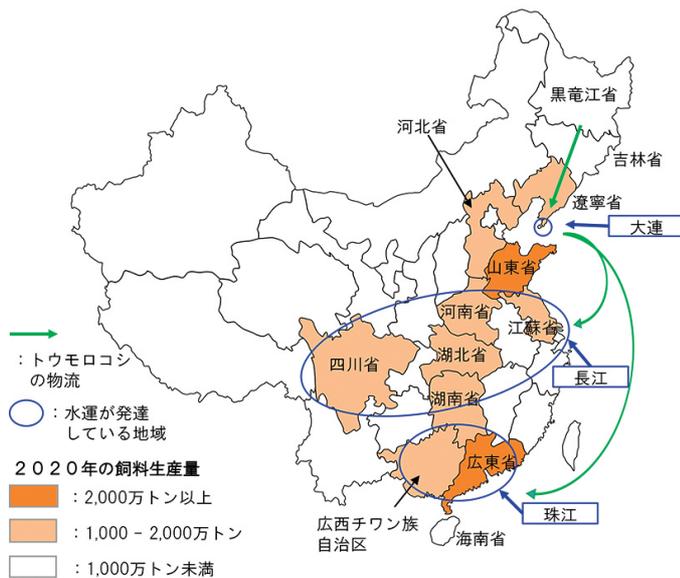
図3 中国の飼料の形態



資料：中国報告網と聞き取りを基に機構作成

2020年目標値の2億2000万トンを超え、2億5276万トンとなりました(図2)。
飼料の流通事情
 中国の主な飼料原料は、エネルギー源としてはトウモロコシ、タンパク源としては大豆かすです。また、ビタミンやミネラルなどを補充するため、ふすま、トウモロコシの蒸留かすであるDDGS、魚粉などが使われています。中国で流通している飼料は、日

図4 飼料原料の輸送ルート



資料：国家统计局の発表を基に機構作成

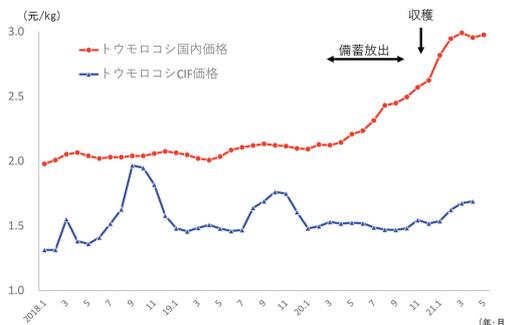
基調で推移し飼料需要が高かったことから、価格は下降しませんでした（図5）。2020年は、中国政府が備蓄トウモロコシを競売にかけ、10～11月に新しく収穫されたトウモロコシが流通しましたが、豚の生産が急速に回復したため飼料需要が急増し、トウモロコシ価格は上昇しました。これは、生

本と同様にそのまま給与できる「配合飼料」のほか、中国で多い豚とトウモロコシなどの複合農家は「濃縮飼料」を購入します（図3）。飼料原料の輸送ルートを見てみると、トウモロコシは、黒竜江省や吉林省から遼寧省の大連まで鉄道で運搬し、そこから船で南東部の各飼料工場へ輸送されます（図4）。中国は古来より水運が発達しているため、長江や珠江流域の内陸の都市まで船でトウモロコシ

直近の飼料需給動向

飼料の主原料であるトウモロコシの国内価格を見ると、2019年上半年期は、アフリカ豚熱発生の影響で豚の頭数が減少したものの、家きん肉や牛肉の生産が増産需要が高かったことから、価格は下降しませんでした（図5）。2020年は、中国政府が備蓄トウモロコシを競売にかけ、10～11月に新しく収穫されたトウモロコシが流通しましたが、豚の生産が急速に回復したため飼料需要が急増し、トウモロコシ価格は上昇しました。これは、生

図5 トウモロコシ価格の推移



資料：農業農村部、輸入 CIF 価格は「Global Trade Atlas」
注：CIF 価格とは出国時の価格に保険料と運賃を加えたもの。

産者や備蓄企業がさらに価格が上昇するまで売り控えたことに加え、加工企業が価格上昇前に購入を急いだこと、先物市場で投機マネーが投入されたことなどから、実際の需給ギャップ以上に価格が高騰したと考えられています。トウモロコシの国内価格と輸入価格の差は拡大しており、飼料生産企業は品質が良い輸入品の方を求めていることから、輸入量が増加しています。こうした状況を受け、中国政府は、①飼料原料をトウモロコシや大豆から米や小麦などに代替、②トウモロコシの作付拡大と



トウモロコシ保管倉庫の様子
(2019年9月吉林省で撮影)

いった穀物政策の方針を打ち出しています。中国の畜産物需要は、今後も増加傾向で推移すると考えられています。総じて、2021年のトウモロコシと大豆の輸入量は増加し、国際価格も高値で推移すると予測されていますが、中国の飼料需給については、政府や企業による原料の備蓄状況、生産国の天候、輸送コスト、さらには投機マネーなど様々な要因が絡んでくることから、今後多岐の情報を収集し、判断することが肝要と考えられます。

台湾・中央畜産会との定期情報交換会議の開催について

6月24日（木）、台湾・財団法人中央畜産会（以下「NAIF」という）との定期情報交換会議が開催されましたので、その概要について報告します。

この会議は、平成3年にNAIFの前身である台湾区肉品発展基金会和定期的に畜産に関する情報交換をすることを目的に開催したのがはじまりです。平成9年に台

湾で家畜伝染病が発生したため、開催を見送りましたが、平成22年に再開し、昨年は新型コロナウイルス感染症の拡大を受けて開催を見合わせたものの、今回初めてweb形式にて開催することができました。

会議では、NAIFの林理事長とalicの佐藤理事長のあいさつの後、双方から新型コロナウイルス感染症による畜産物の生産、流通及び消費への影響についての説明がなされるなど、今回も貴重な情報交換の場になりました。

NAIFからの主な説明内容は以下のとおりです。

会議の最後には、NAIFとalicとの間で、引き続き交流を重ねていくこととし、改めて友好を確認しました。次回は来年、台北で開催予定です。



台北と東京をオンラインで結んだweb会議を開催しました。

NAIFからの主な説明内容

- ・昨年は世界の流行初期に検疫を厳格化し、感染者数の増加が抑えられたが、今年5月初旬から急増。5月19日以降、全土警戒レベルを4段階中の第3段階まで引き上げたことにより移動制限や休業要請、休校などの措置が続き、巣ごもり需要が増加。
- ・従来、食材は雑貨店などの小型店舗での調達が主流であったが、現在はスーパーマーケットなどの大型店舗での一括購入の動きが目立ってきている。
- ・自給率の高い台湾産豚肉は、従来の小型店舗での購買が盛んとなり、卸売価格が上昇。家きん肉も購入量が増加。牛乳・乳製品は、ネット販売や宅配が拡大。鶏卵は、学校給食や外食などの需要が減少したが、まとめ買い推奨により大型店舗での購入量が急増。
- ・政府としては、余剰となった畜産物などについて、フードバンクや給食などでの利用促進、台湾内外での販売促進、輸出版路の開拓などの取組に対する支援措置を実施。

alic

エーリック

次号は2021年9月1日発行です。

掲載予定

- トップインタビュー「日本のレシピで世界に挑戦」
- alic から「パネルの貸出しについて～砂糖・でん粉編～」
- まめ知識「琥珀糖を作ろう～宝石のような砂糖菓子～」

※タイトルなどを変更する可能性がありますので、ご了承ください。

alic (エーリック) 8月号 (No. 56)
2021年8月4日発行

発行元 独立行政法人農畜産業振興機構
(alic : エーリック)
Agriculture & Livestock
Industries Corporation
〒106-8635
東京都港区麻布台 2-2-1
麻布台ビル
電話 03-3583-8196 (広報消費者課)
F A X 03-3582-3397
U R L <https://www.alic.go.jp/>
製本/印刷 山口北州印刷 (株)

※本誌掲載記事の転載をご希望の場合は上記窓口まで
ご相談下さい。

※バックナンバーのご案内

https://www.alic.go.jp/koho/kikaku03_000299.html

※本誌に掲載した論文などで、意見にわたる部分は、
それぞれ筆者の個人的見解であることをお断りします。

編集部から

今号では、「令和2年度 食料・農業・農村白書」について、農林水産省大臣官房広報評価課情報分析室にご寄稿いただきました。日本国内では、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う外出自粛のため、家庭内消費が増加したり、外食用に販売予定だった食品をフードバンクで利用したりするなどの動きが見られます。「海外情報」で取り上げたブラジルや「alic から」でご紹介した台湾においても、農業や食料消費への影響が見受けられます。alic は、引き続き国内外の情勢について、情報収集・発信に努めてまいります。

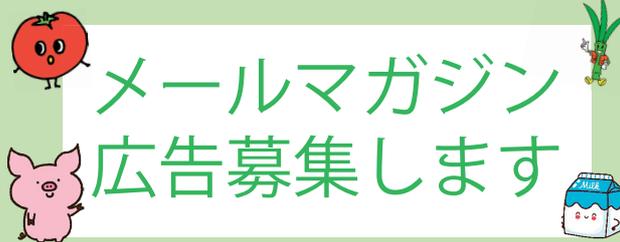
「業務関連情報」では、乳製品輸入・売渡業務をご紹介しました。おうち時間にお菓子づくりを始められた方もいらっしゃるかと思います。alic は、皆様の元に農畜産物が安定的に届くよう、引き続き業務を行ってまいります。

ご感想ご意見をお待ちしています！

今月の広報誌「alic」のご感想や今後取り上げたらよいと思われるテーマなどに関するご意見について、ぜひお聞かせください。下記リンクよりご回答いただけます。

[広報誌「alic」アンケートフォーム | 農畜産業振興機構](#)

情報誌のメールマガジンに広告を掲載してみませんか？
セミナーのご案内など貴社のPRに是非ご活用ください！



原則毎月10日(砂糖類・でん粉)
と25日(畜産、野菜)の配信です。
詳細はこちらをご覧ください。

https://www.alic.go.jp/koho/mng01_000275.html



alic

Agriculture & Livestock Industries Corporation
独立行政法人 農畜産業振興機構

応援します



国際果実野菜年

2021